

会社概要

商号 株式会社 第一興商
(英文表記) DAIICHIKOSHO CO., LTD.
所在地 〒141-8701 東京都品川区北品川5-5-26
TEL.(03)3280-2151 (大代表)
設立 1973年4月16日
資本金 12,348百万円
従業員数 1,367名 (平成11年9月30日現在)
店頭登録 1995年9月19日
ホームページアドレス <http://www.dkkaraoke.co.jp/>

第25期中間事業報告書 平成11年4月1日～平成11年9月30日

Vol.8



Top Message



代表取締役社長
保志 忠彦

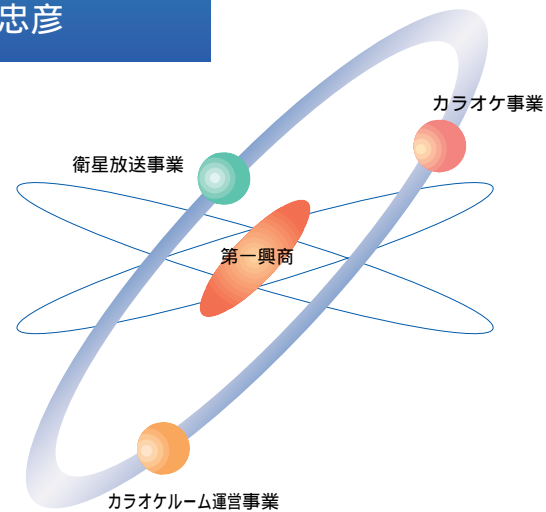
カラオケを中心とした音楽の楽しさを提供する企業としての確かな歩み。

ナンバーワン企業として、
ダイナミックかつ着実な事業活動を展開。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素は当社の事業活動に対しまして格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

今や「カラオケ」は、年代を問わず楽しめる娯楽として、また、日本発の世界的レジャーとして認知され音楽文化の一翼を担う地位を確立しています。当社は1973年の創業以来、カラオケを通じて親しみのある音楽文化の振興と、楽しさを分かち合えるコミュニケーションの場を提供し続けてまいりました。そして95年には株式の店頭公開を果たし、おかげさまで5年目を迎えることができました。その間、主力となりますカラオケ関連事業ではリーディングカンパニーとして確固たる事業基盤を築き、また、発展著しい情報通信分野にも事業フィールドを広げた衛星放送事業など新規事業展開も積極的に推し進めています。



通信カラオケ「DAM」、市場シェア35%を獲得。

カラオケ業界は、現在音楽業界で話題となっている、電話回線を介して音楽を配信するシステムである「通信カラオケ」が主流となっています。94年に販売を開始した通信カラオケ「DAM」は品質の高さと強靱な販売力で他メーカーを圧倒しています。現在、「DAM」の稼働台数は11万台を突破し、35%の圧倒的トップシェアを獲得しています。そして、今後もさらに当社のシェアが高まる一方で、「DAM一人勝ち」の様相を呈する状況が予測されています。また、カラオケルーム事業におきましても、「ビッグエコー」は日本最大のカラオケルームチェーンとして揺ぎない地位を確立しています。一部不採算店舗の整理と、より競争力の高い新店の出店を推進するスクラップ&ビルド戦略と、常にカラオケファンのニーズを先取りしたサービス提供による高い集客力、収益力のあるチェーンオペレーションが展開されています。



「デジタル産業革命」に対応する万全の事業資産を保有。

インターネット社会の急速な発展、光ファイバーによる情報通信インフラの構築、放送のデジタル化など情報通信関連技術の革新的な進歩により、業界界は一大変革期を迎えています。現在は、「ネットワーク」と「デジタル」をキーワードとした産業革命期といっても過言ではありません。当社では、こうしたビジネス環境の激変期にも勝ち抜ける事業資産を保有しています。それは、当社が制作した数万曲にものぼる高品質で豊富なカラオケソフトの蓄積です。この圧倒的なデジタルコンテンツの蓄積がデジタルビジネスで覇権を握る鍵であり、大いなる武器となることはいうまでもありません。そして、この良質で豊富なソフト力を武器にいち早く新規参入した「スカイパーフェクトTV」の衛星デジタル放送の委託放送事業は現在、デジタルテレビの「スターカラオケ」「スタービュー」、さらに、デジタルラジオの「スターデジオ」をラインナップに加えて、収益事業の柱として着実に成長しています。「市場動向を読み取り、その先駆けとして迅速に対応する」という当社の経営姿勢を具現化した衛星放送関連事業は、来るべきデジタルネットワーク社会における「総合音楽デジタルコンテンツ提供企業＝第一興商」としての礎を確実なものとしていくための布石として位置付けられています。そして、今後のさらなる業容拡大に大きく貢献していくものと確信しております。

株主の皆様におかれましては、何卒変わらぬご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

Karaoke

カラオケ事業

通信カラオケ「DAM」の圧倒的なシェアを背景に、常にカラオケの新しい楽しさを追求しています。



当社では、最新のデジタル技術から生まれた通信カラオケ「DAM」シリーズを中心に移動可能な「Party DAM」やプリントシールとドッキングした「Pri DAM」など、カラオケをより楽しく演出するさまざまな機種を開発、強固な販売ネットワークをフルに活用し、ナンバーワンブランドとしての地位を確立しています。市場環境は、個人消費の低迷からカラオケ機器の販売・リースの需要先となるバー・クラブ・スナックなど「ナイト市場」での設備投資は抑制され、また、カラオケルームを中心とする「デイ市場」も低成長期を迎え、カラオケ機器市場は全体として成熟状態にあるといえるでしょう。しかしながら、カラオケシステムの主流である通信カラオケは、市場全体の稼働台数約55万台中30万台を突破して6割程度のシェアを占め、さらに当社の通信カラオケ「DAM」シリーズは、そのうちの35%（11万台突破）を占めるに至っています。当社の高度な技術力と販売力、さらには提供される美しい映像・高品位でクリアな音楽ソフトの制作能力、そして「カロリーカラオケ」や「採点ゲーム」などの豊富なアミューズメント機能がシェア獲得の要因といえるでしょう。

さらに、この11月には発売前から大反響を呼んだカラオケパワーアップ周辺機器「DAM-DDR」（コナミ（株）との共同開発）と「DAM-JACK」が市場投入され、映像・音楽にダンスやセッションの楽しさを加えた総合エンタテインメントにより、さらなる市場拡大とシェア拡大を図っていきます。

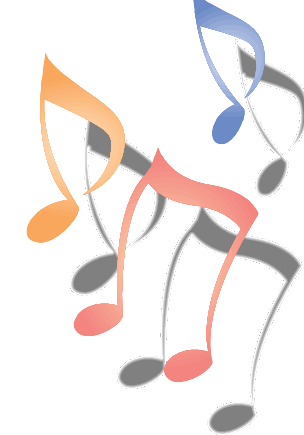
DAMカラオケランキング

- 1位 Automatic
宇多田ヒカル
- 2位 Winter, again
GLAY
- 3位 First Love
宇多田ヒカル
- 4位 BE WITH YOU
GLAY
- 5位 Time goes by
Every Little Thing

1999年度上半期（'99年4月～'99年9月）カラオケリクエストランキング

当社は創業以来、優れたカラオケソフトを数多く制作し、蓄積しています。そして今も毎月70～100曲の新譜が高品位でクリアな音源で制作され、全国11万台を超える通信カラオケ「DAM」に配信、供給されています。毎月供給される音源提供収入も「DAM」のシェア向上とともに増加し、収益の大きな柱として成長しています。さらに、蓄積されていくデジタル音楽コンテンツ（カラオケソフト）は、デジタルをキーワードとして急速に変革を遂げるビジネス環境下において最も強力な武器となることはいうまでもありません。他社と差別化された品質の高いソフトが、当社の事業発展に欠くことのできない重要な資産となっています。

カラオケ・エンタテインメントを演出する新サポート機器、続々登場。



市場拡大の起爆剤。
ダンスシミュレーション・カラオケシステム
「DAM-DDR」待望の発売開始。

ゲームセンターや家庭用ゲームで一大ブームを巻き起こしたコナミ（株）のダンスゲーム「ダンスダンスレボリューション」がカラオケとドッキング、映像/音楽に加えて「ダンス」による新しいエンタテインメントとコミュニケーションを実現します。「DAM-DDR」は通信カラオケ「DAM-G128」と接続することで、踊れる曲が2万曲以上。新譜もリアルタイムでリリースされ、ステージユニットはコンパクトな設計により、2プレイヤーにも増設可能。また、「DAM」本体との連携による「カロリー消費表示機能」や「ダンス得点」「歌唱得点」など機能も充実、カラオケに付加価値を付けユーザーのニーズに応えます。

「ダンスダンスレボリューション」はコナミ株式会社の登録商標です。

カラオケと同時にギターとパーカッションのセッションが楽しめる「DAM-JACKシリーズ」の「ギタージャック」と「リズムジャック」でカラオケをパワーアップサポート。

「ギタージャック」は「DAM-G128」と連動してカラオケと同時にギターセッションが楽しめるギター型コントローラーです。ギターが弾けない方でも好きな曲に合わせてプロのギターサウンドを手軽に楽しむことが可能となりました。また、「リズムジャック」も同様にカラオケに合わせてリズムセッションが楽しめるパーカッション型コントローラーで、パッドを叩くだけで5種類のモードから選んだ打楽器音を自由に操ることができます。



K BIG ECHO

カラオケルーム運営事業



多彩なルーム展開で、収益力の向上と顧客ニーズを先取りする店舗開発を進めています。

R Room



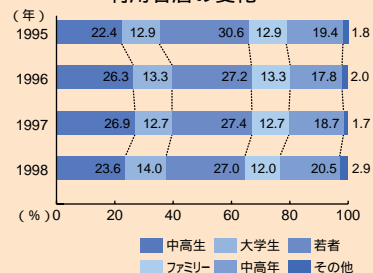
ハローキティルーム



Woops!

国内最大のチェーン店数（全国278店、99年10月現在）を誇るカラオケルーム・ナンバーワンブランド「ビッグエコー」。常に最先端の通信カラオケ「DAM」の設置、良質な音響装置、照明設備を完備し、パリエーション豊かなフード&ドリンクメニューとともに、全国5千万カラオケファンに歌う喜び、歌を通じたコミュニケーションを提供しています。現在カラオケルーム市場は売上・施設数ともに減少傾向にありますが、コミュニケーションスペースとして「質（クオリティ）」による淘汰が始まっているといえるでしょう。当社では不採算店舗の整理と、より良いロケーションへの出店というスクラップ&ビルド戦略により収益力の向上を図るとともに、より楽しいコミュニケーションスペースとしてのカラオケルーム業態の確立を目指しています。とくに、当社の多彩な企画力を発揮した飲食店複合カラオケや(株)サンリオとの共同企画による「ハローキティルーム」、さらには人気ロックバンド「聖飢魔」プロデュースによる「Woops!」等、空間演出やソフト制作など綿密なマーケティングにより、郊外から繁華街まで地域ごとのユーザーニーズに対応した店舗開発力は競合他店との大きな差別化を実現しています。さらに、カラオケ・エンタテインメントを演出する当社の最新機器やサービスの先行配備などカラオケ機器開発企業としての優位性を遺憾なく発揮した事業展開を進めています。

利用者層の変化



年代・性別を問わない大衆レジャー「カラオケ」

平成11年版レジャー白書によると、「カラオケ」は「外食」「国内観光旅行」「ドライブ」に次ぐ参加率（49.0%、ほぼ2人に1人の割合でカラオケレジャーを楽しんでいる）を誇る大衆レジャーとして定着しています。利用者層を見ると、これまでのカラオケファンは若年層が中心となっていました。中高年層の利用比率が増加傾向にありカラオケが年代を問わず親しまれていることが分かります。また、性別での利用傾向を見ると、10代の女性が73.8%と驚異的な参加率を獲得していることから将来に向けて女性ファンのさらなる増加が期待されています。

Broadcasting



スターカラオケ23万件、スタービュー13万件、スターデジオ10万件と受信契約数は、堅調な増加が続く。



来るべきデジタルネットワーク社会を見据えた衛星放送事業は、着実に当社の事業の柱の1つになりつつあります。累積の受信契約数は、音楽専門チャンネル「スターカラオケ」が23万件、環境映像専門チャンネル「スタービュー」が13万件、さらに100チャンネルの音楽ラジオ「スターデジオ」が10万件（いずれも99年10月現在）と順調に増加しています。さらに、テレビ15チャンネルとラジオ102チャンネルを業務用にパッケージした画期的な放送サービス「スターDAM」は、あらゆる業種業態のニーズに対応するのはもちろんのこと、優れたコストパフォーマンスも実現。将来的には各種アミューズメント情報の提供や、画面を見ながら行える双方向の情報サービスなど、今までの放送の概念を超える多彩な情報活用を可能にするものです。現在、1000億円規模といわれる有線放送市場を取り込みながら確実にシェアを獲得しています。



【ソング・オブ・ネイチャー】屋久島



【ソング・オブ・ネイチャー】中津川渓谷

「STAR Karaoke」のおすすめ番組をご紹介します。

【The Folk】

60年代、70年代日本の音楽シーンで一世を風靡した「フォーク」。南こうせつ・イルカ等、日本を代表するフォークミュージシャンが毎回登場する「The Folk」が好評につき11月より30分から60分番組に拡大されました。演奏曲数も増え、見ごたえ充分です。

【平尾昌晃のMy Dream Song】

歌手であり作曲家としても多くのヒット曲を世に送り出している平尾昌晃氏が「演歌」の基礎から歌い方まで、楽しく手ほどきする演歌レッスン番組「平尾昌晃のMy Dream Song」は、演歌好きのカラオケファン必見の番組です。

これからも【STAR Karaoke】はニーズに合った様々な番組を提供してまいります。

営業の概況

当中間期のわが国経済は、政策効果の現れや株式市況の好調、個人消費に明るさが見えるなど僅かながら景気に回復感が出てきたものの、企業の設備投資圧縮や雇用の先行き不安が残るなど本格的な回復基調を確認するには至りませんでした。

当カラオケ業界におきましても、ナイト市場をはじめカラオケボックスなどデイ市場の経営環境は依然厳しく、新規投資の抑制によるカラオケ機器の買替需要減退やそれに伴う価格競争の激化など、企業間競争は一層激しさを増してきております。当業界内では、カラオケ機器賃貸事業へ特化する企業など、営業戦略を転換する動きも出てきております。

このような状況のなか、当社は、シェア拡大を目標に通信カラオケの販売・賃貸に注力してまいりましたが、通信カラオケ機器の出荷台数が前年同期を下回るなど販売面での苦戦は続いております。しかしながら、前下期に市場投入いたしました高級機種「DAM-G128」が着実に出荷台数を伸ばすなど明るい兆しも見え始めております。

カラオケルーム運営事業におきましては、新規出店を控える一方、不採算店3店舗を閉店し既存店の収益改善に取り組んでまいりました。また、衛星放送事業につきましては、民生用音楽ラジオ放送「スターラジオ」を中心に加入契約数の増加に注力してまいりました。

この結果、当中間期の売上高は、通信カラオケ情報提供料収入や衛星放送事業収入が増加したものの出荷台数の減少が影響し28,875百万円と前年同期に比べ7.4%の減少となりました。一方、利益面におきましては、前期から取り組んでおりますコスト削減が浸透し販売費及び一般管理費が当初計画に対し約9億円改善したことから営業利益は1,614百万円（前年同期比101.9%増） 経常利益は2,161百万円（前年同期比163.7%増） 中間純利益は775百万円（前年同

期比151.1%増）となりました。

なお、事業税（前中間期30百万円）の計上区分変更を考慮した実質ベースでの増減率は、営業利益で94.6%増、経常利益で154.4%増であります。

通期の見通しにつきましては、経済指標などに明るさは見えてきたものの、個人消費をはじめ民間設備投資など消費面での本格回復にはなお時間が掛かるものと思われ、当業界におきましても、依然厳しい状況が続くものと予想されます。

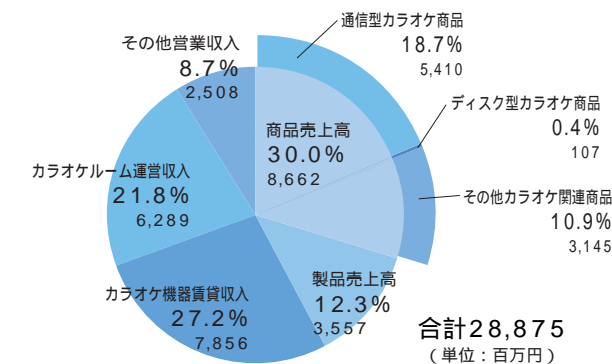
当社におきましても、販売面での苦戦はなお継続するものと考えており、この下期では「DAM-G128」向けの配信楽曲を増加させるとともに映像の強化を図るなど、音源と映像両面を充実することで他社商品との差別化を鮮明にし、主力商品「DAM」の出荷増につなげる計画であります。また、コナミ(株)との提携により、11月から発売しております「DAM-DDR（ダンスダンスレボリューション）」におきましては、従来の歌うカラオケに踊るゲーム性を付加した新商品として今後の展開に期待するところであります。

これらの取り組みを基に、販売・賃貸をはじめとして業界内での一層のシェア拡大を目指すとともに、衛星放送事業におきましても事業損益の早期黒字化を実現するべく「スターラジオ」を中心に契約件数の増加を目指していくものであります。

以上を踏まえ通期の業績予想につきましては、売上高で610億円（前期比3.6%減）、経常利益で45億円（前期比56.8%増）、当期純利益で14億円（前期比53.9%増）を見込んでおります。

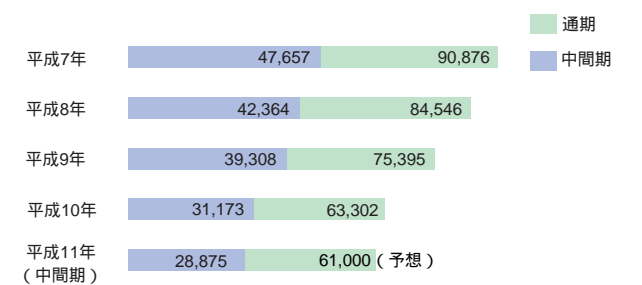
また、配当政策につきましては、業界内における当社シェアと収益基盤の拡大のため内部留保を充実しつつ長期安定配当を維持することを基本方針としており、当期の期末配当金は1株当たり35円（予想配当性向46.9%）とする予定であります。

部門別売上高



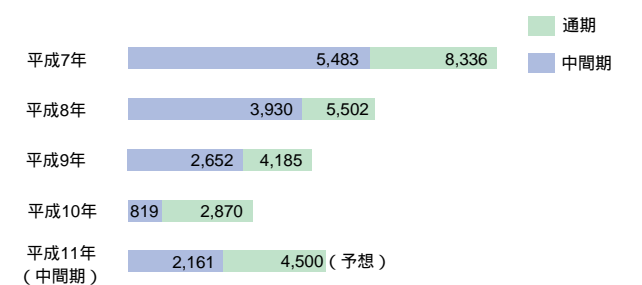
売上高

(単位：百万円)



経常利益

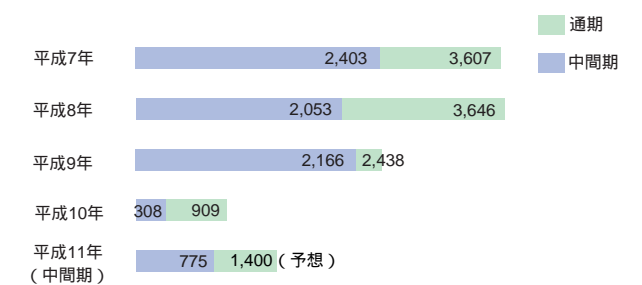
(単位：百万円)



財務ハイライト

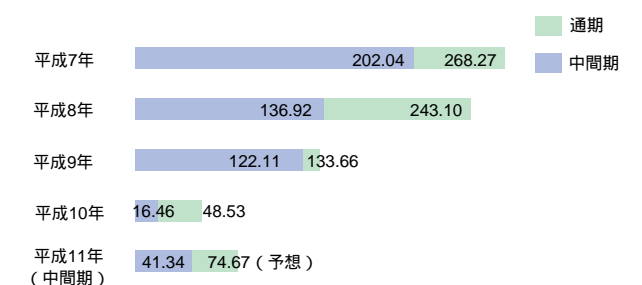
当期純利益

(単位：百万円)



1株当たり当期純利益

(単位：円)



中間貸借対照表

(平成11年9月30日現在)

科目	金額 (百万円)	構成比 (%)	科目	金額 (百万円)	構成比 (%)
< 資産の部 >			< 負債の部 >		
流動資産	38,766	33.3	流動負債	21,330	18.3
現金及び預金	21,310		支払手形	2,345	
受取手形	2,009		買掛金	2,156	
売掛金	4,341		短期借入金	6,570	
有価証券	4,517		1年以内返済予定長期借入金	5,020	
たな卸資産	4,043		未払金	2,548	
その他	3,079		未払法人税等	1,092	
貸倒引当金	534		その他	1,596	
固定資産	77,500	66.7	固定負債	30,769	26.5
有形固定資産	52,681	45.3	転換社債	24,605	
建物	7,705		長期借入金	5,191	
カラオケ賃貸機器	2,226		その他	973	
カラオケルーム設備	6,301		負債合計	52,100	44.8
土地	33,479		< 資本の部 >		
その他	2,968		資本金	12,348	10.6
無形固定資産	3,611	3.1	法定準備金	24,345	21.0
投資等	21,206	18.3	剰余金	27,472	23.6
長期貸付金	8,327		資本合計	64,165	55.2
敷金・保証金	8,127		負債・資本合計	116,266	100.0
その他	9,951				
貸倒引当金	5,200				
資産合計	116,266	100.0			

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表の注記

1.有形固定資産の減価償却累計額	22,450 百万円
2.担保に供している資産	有価証券 1,443 百万円 建物 2,265 百万円 カラオケ賃貸機器 175 百万円 土地 11,116 百万円
3.偶発債務	保証債務 6,407 百万円 保証予約等 788 百万円
4.1株当たり中間純利益	41円34銭

中間損益計算書

(平成11年4月1日～平成11年9月30日)

科目	金額 (百万円)	百分比 (%)	対前年同期比 (%)
売上高	28,875	100.0	92.6
売上原価	18,482	64.0	91.5
割賦損益調整前売上総利益	10,393	36.0	94.6
割賦販売未実現利益戻入(+)	127		
割賦販売未実現利益繰延(-)	62		
売上総利益	10,458	36.2	94.3
販売費及び一般管理費	8,843	30.6	85.9
営業利益	1,614	5.6	201.9
営業外収益	1,814	6.3	109.7
営業外費用	1,267	4.4	77.6
経常利益	2,161	7.5	263.7
特別利益	215	0.7	188.0
特別損失	641	2.2	176.6
税引前中間純利益	1,735	6.0	303.9
法人税、住民税及び事業税	960	3.3	
中間純利益	775	2.7	251.1
前期繰越利益	696		
中間未処分利益	1,472		

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会については3月31日 利益配当金については3月31日 中間配当金については9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	三菱信託銀行株式会社 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱信託銀行株式会社 証券代行部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同連絡先	三菱信託銀行株式会社 証券代行部 〒171-8505 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 電話03(5391)1900(代表)
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
証券・銘柄コード	7458

<お知らせ>

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単位未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

株価(週足)チャート

